

ボランティア団体へ図書を贈呈しました

社員への福利厚生の一環として社員各自が自宅にある読み終わった本を持ち寄り、社員間で有効に活用してもらうことを目的として、古本を「活かす」と「生かす」の意味から「イカスBOOKプラザ」という名称で、社内に書籍ブースを設けることにした結果、本店の「イカスBOOKプラザ」において社内外から約3,000冊の図書が集まりました。

このほど、社会貢献活動のひとつとして、それらを図書の再活用を進めているボランティア団体「北海道ブックシェアリング」（本部・札幌）に贈呈致しました。

平成21年10月26日13時30分から行われた贈呈式について、新聞に掲載されましたのでご紹介します。

2009-10-27付 北海道通信 記事

平成21年10月27日 【火曜日】

各企業の社会貢献

**札建工業が蔵書を寄贈
図書環境の充実に貢献**



札建工業（札幌、小林）ボランティア団体「北海道ブックシェアリング」は26日、北海道図書環境の充実に貢献した。

同社では、昨年三月から社員年三月から社員として各自が不要となった本を持ち寄り、社員間で有効に活用

用してもらおうと社内蔵書所蔵書籍ブースを設置。好評を得て三千冊以上の本が集まり、扱いを検討していたところ、家庭や団体に不要になった本を引き取り、補修した上で道内の学校図書館や保育・福祉施設等に無償で提供しているボランティア団体「北海道ブックシェアリング」の活動を聞き、これまで集まった三千冊以上の書籍を寄贈することとした。

この日の贈呈式では、同社内の書籍ブースの前で、社内の書籍ブースの管理を担っている常務取締役井野克文が北海道ブックシェアリングの荒井代表と目録を手渡した。

荒井代表は「北海道は学校図書館の蔵書率が全国ワーストであり、自治体の予算が厳しい状況にある。子どもたちが高齢者などの読書環境の充実のため、本はいくらあってもいいものであり、今回の三千冊もの寄贈は本当に助かります」と感謝を述べた。

井野代表は「ブックシェアリングさんの活動を知りたいとお考えに至った。今後も寄贈を続けていきま」と力強く話した。

2009-10-27付 北海道建設新聞 記事

北海道ブックシェアリングに社内文庫寄贈



子どもたちの明るい未来のために豊かな読書環境を。札建工業（中央区、小林徳宏社長）は、読み終わった書籍を持ち寄り、本の再活用を進めているボランティア団体「北海道ブックシェアリング」に寄贈する取り組みを始めた。26日、同社で初めての贈呈式が行われ、井野克文取締役が北海道ブックシェアリングの荒井代表と目録を手渡した。

同団体は引き取った本をクリーニング、補修し、たうえて道内の学校図書館や保育・福祉施設などに無償で提供。市内の学校空教室にスペースを借り、必要な本を実際に見て選んでもらう取り組みを進めている。

井野取締役は「これが世の中に読書の楽しさを引き渡らせる一助になれば」と願いを託し、荒井代表は「大人が頼りに汗すること子ども読者空間を大きく豊かなものに

「北海道ブックシェアリング」は、26日、同社で初めての贈呈式が行われ、井野克文取締役が北海道ブックシェアリングの荒井代表と目録を手渡した。

同団体は引き取った本をクリーニング、補修し、たうえて道内の学校図書館や保育・福祉施設などに無償で提供。市内の学校空教室にスペースを借り、必要な本を実際に見て選んでもらう取り組みを進めている。

井野取締役は「これが世の中に読書の楽しさを引き渡らせる一助になれば」と願いを託し、荒井代表は「大人が頼りに汗すること子ども読者空間を大きく豊かなものに

「できる」と、責任を持つて次の本棚に引き継ぐことを約束した。